執筆者紹介

彭 浩斌 Pang Ho Pan

香港第一日語暨文化学校日本語講師、香港中文大学卒。

工藤貴正 Kudoh Takamasa

一九五五年生まれ。愛知県立大学外国語学部教授。中国近現代文化文学、比較文化文学。「近代的〈鬼〉概念の成立」『中国語圏における厨川白村現象』『魯迅と西洋近代文芸思潮』

立石謙次 Tateishi Kenji

一九七三年生まれ。東海大学文学部講師。中国西南民族史、少数民族語の文字表記の研究。『雲南大理白族の歴史ものがたり—南詔国の王権伝説と白族の観音説話』「清初雲南大理地方における白人の歴史認識について—『白国因由』の研究」「南詔国後半期の王権思想の研究—『南詔図伝』の再解釈」

飯島和俊 Iijima Kazutoshi

國學院大學文学部兼任講師。中国古代史（戦国秦漢出土文物）。「「章」と「章奏」—酷吏列伝「因責如章告劾」を手がかりとして」「「元延二年日記」と吏の移動—吏の移動をめぐって、『尹湾漢墓簡牘』所載「元延二年日記」による検討」「「宿舎」と「宿家」—『元延二年日記』の復元を巡って」

山本恭子 Yamamoto Kyoko

金沢大学大学院人間社会環境研究科博士後期課程。中国民俗地理学。「喪葬習俗的民俗地理学研究」「近世華北における「招魂」・「報廟」習俗の変容」

林 承緯 Lin Cheng-Wei

一九七七年生まれ。国立台北芸術大学文化資源学院専任副教授。民俗学、民藝研究。『宗教造型與民俗伝承—日治時期在台日人的庶民信仰世界』「台北稲荷神社之創建、発展及其祭典活動」「従金関丈夫的民藝書写看民藝運動対台湾工藝研究萌芽的影響—以雑誌《民俗台湾》之〈民藝解説〉為中心」

黄 錦標 Kam Bill Wong

創価大学法学部招聘教授。国際人権法、犯罪学。〝Corruption Judgments in Prewar Japan: Locating the Influence of Tradition, Morality and Trust on Criminal Justice〟

アンドリュー・マクノートン Andrew MacNaughton

麗澤大学外国語学部准教授。社会人類学。〝Proposing a Common 'Ideologyscape' of State and Company in Japan's EFL Industry〟〝Company and Personal Character in the Eikaiwa Industry: An Ethnography of a Private Language School in Japan〟〝Corruption Judgments in Prewar Japan: Locating the Influence of Tradition, Morality and Trust on Criminal Justice〟

田村和彦 Tamura Kazuhiko

福岡大学人文学部東アジア地域言語学科准教授。文化人類学、民俗学。「現代中国における墓碑の普及と「孝子」たち—陝西省中部農村の事例から」「中国民俗学の現在—現地調査と民俗志を中心に」「文化人類学與民俗学的対話—圍繞「田野工作」展開的討論」

片茂永 Pyeon Moo-Yeong

愛知大学国際コミュニケーション学部教授。宗教民俗学。『韓国仏教民俗論』『初八日民俗論』「민속의 외부지향성에 관한 문제」

藤田賀久 Fujita Norihisa

一九七三年生まれ。財団法人日本総合研究所理事長室付研究員、多摩大学非常勤講師。東アジア近現代史（戦前日本外交、日米関係史）、国際関係論。「侵略と連帯の交錯―日本仏教の布教権要求と対華二一か条を中心に」「中国人の心」を巡る国際競争―近代日本の対華文化・宗教進出」「南満州の獲得―小村寿太郎とその権益認識」

羽根次郎 Hane Jiro

明治大学政治経済学部専任講師。東アジア近現代史。「尖閣問題に内在する法理的矛盾―「固有の領土」論の克服のために」「啓蒙思想期以降のヨーロッパにおける南台湾記述と「南東台湾」の発見について」「現代中国を見つめる歴史的視座―社会統合の位相より見る重慶騒動と指導者交代」

明木茂夫 Akegi Shigeo

一九六二年生まれ。中京大学国際教養学部教授。中国文学・中国古典楽理。『中国地名カタカナ表記の研究―教科書・地図帳・そして国語審議会』『楽は楽なり―中国音楽論集』『楽は楽なりⅡ―中国音楽論集 古楽の復元』

樋泉克夫 Hiizumi Katsuo

一九四七年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。華僑・華人論、京劇史。「地球規模で版図拡大する中国―水・陸・鉄・空路結ぶ計画着々」「華人」がカギ握る中国経済発展」「中国の「経済危機」に思う」

翻訳者紹介

工藤瑞奈 Kudo Mizuna

一九八九年生まれ。京都大学文学研究科現代文化学専攻博士課程。香港現代史研究。

中国21 Vol.42 予告（15年2月刊行予定）

特集◉中米関係（仮題）

二〇一三年に米カリフォルニア州、サニーランドでバラク・オバマ大統領と習近平国家主席の会談がおこなわれてから一年以上が経過した。オバマ政権は外交政策の柱としてアジア戦略を重視する方針を打ち出し、中国とは「対話の深化」をとおした「新たな大国関係」構築の道を模索してきたが、かけ声倒れという批判の声も上がっている。投資や為替をめぐる経済対話では進展が見られても、軍事、領土、といった政治的関係では依然として大きな課題を抱えており、二〇一四年に入ってからは、米司法省による中国人ハッカーの起訴に代表されるように、両国間のサイバー戦争も激化の様相を呈している。とはいえ、米海軍主催の「環太平洋合同演習（リムパック）」に中国軍が初参加したように、政治外交面で膠着しているかに見えるイメージとは裏腹に、現実には両国間で緊張の度を増す「交渉」が展開されている。本特集では、こうした情勢を踏まえ、政治とともに、文化、思想といった側面から中米関係に新たな光を当ててみたい。

【論説】前嶋和弘、馬場智一、倉重拓、白井聡、羅艶華、余万里、李有成、単徳興ほか